




SCERTS セミナー


SAPコース @京都


『SCERTSモデル』とは、アメリカのプリザント博士らにより開発された、自閉症スペクトラム障害のある人たちの、社会コミュニケーションや情動調整の能力を支援するための、包括的、学際的アプローチです。『SCERTS』は、社会コミュニケーション (Social Communication)、情動調整 (Emotional Regulation)、交流型支援 (Transactional Support)の頭文字を並べたもので、SCERTS モデルがこの3領域からなることを示しています。このセミナーでは、SCERTSのアセスメントである**SAP(SCERTS Assesment Prosess)**を体系的に学びます。SCERTSモデルの枠組みに従って、どのようにアセスメントすればいいのか、理解し、実践力を高めます。

 **日時：** オンデマンド配信 各回90分～2時間程度
対面研修、ライブミーティングの日程は参加者の方と相談の上決定

 **場所：** WEBでのオンデマンド配信と、対面研修かWEBによるライブミーティング
(直接対面研修の場合、会場は参加者の方と相談の上決定)

 **受講資格：** 教諭、保育士、心理士、言語聴覚士、作業療法士、
その他自閉症のある子どもの支援に関心をお持ちの方

 **参加費：** 25,000 円

 **スケジュール** 以下の内容を、基本はWEBのオンデマンドによって視聴していただきます。

- 1.SCERTSの概要・イントロダクション
- 2.社会コミュニケーション領域
- 3.情動調整領域
- 4.交流型支援領域
- 5.優先事項とマイルストーン
- 6.介入アプローチの連続体
- 7.アセスメントプロセスの概要
- 8.SAP-O基準・社会コミュニケーション段階
- 9.SAP-O基準・言語コミュニケーション段階
- 10.SAP-O基準・会話コミュニケーション段階
- 11.アセスメント実習(スクーリング又はライブ6時間)
- 12.アセスメント実習(各現場にて。概ね2時間~3時間)
- 13.教育実践へのガイド・1
- 14.教育実践へのガイド・2
- 15.家族支援と専門家間支援
- 16.目標のリンク(2時間の動画が3本)
- 17.社会パートナー段階におけるプログラムの実行
- 18.言語パートナー段階におけるプログラムの実行
- 19.会話パートナー段階におけるプログラムの実行
- 20.優先目標の決定から教育計画までの実習・SAP-Qについて(スクーリングまたはライブ6時間)

※11.12.20以外はオンデマンドで90分～ 11.20は6時間程度 12は適宜
※11.20については参加者と協議の上日程を決定します。

※1から順番に受講してください。但し、11.12を受講する前に13~19以降の受講をしてもらってもかまいません。また、10まで受講済みでない11以降は受講できません。

※配信は、10月以降をめぐりに、準備ができたものから受講者にお知らせしていきます。

※各回、簡単なレポートを求めます。



定員： 定員はありません。職場・等で3名以上まとまって申し込んでいただくと、11や20についてもそちらにお邪魔してアセスメント実習などをすることが可能です。



参加申込： <https://scerts-west.com> の研修申し込みフォームから申し込むか、

① 氏名 ② 所属先 ③ 職名・資格など ④ 連絡先を記入の上、info@scerts-west.com までメールにてお申込みください。申し込みを頂くと、確認のメールを返信します。二日以内に返信がない場合は、再度お問い合わせください。

参加費は、参加申込確認の返信後、10日以内に下記口座にご入金ください。入金が確認できない場合は、お申込みが無効となります。ご了承ください。

「ゆうちょ銀行 [記号] 14420 [番号] 14148071

[名義] 西山剛司 (ニシヤマ タケシ)

他金融機関から振り込む場合

「ゆうちょ銀行 [店名] 四四八 [店番] 448 [預金種目] 普通預金

[口座番号] 1414807 [名義] 西山剛司 (ニシヤマ タケシ) 」



SCERTSモデルとは：

SCERTSモデルとは、「自閉症支援に必要な事項がほとんど含まれている(十一、2004)」と評価されている、ASDの有る人への包括的・学際的な支援の枠組みです。そして、それは、生態学的なアセスメントを行うことを中心として、ASDの有る子どもの困難の焦点となっている「社会コミュニケーション」と「情動調整」に取り組み、その力の発達と生活の改善を目指す支援を行います。また、その際、対象のASDの有る人と関わっている人(養育者、支援者、友達など)をパートナーと呼び、そのパートナーの関わり方や学んだり生活したりしている環境についてもアセスメントし、それらを含んだ全体の発達を促す枠組みです。

アセスメントは、ASDのある人個人の能力や状態をアセスメントするにとどまらず、ブロンフェンブレナーのいう、マイクロシステム、メゾシステム、エクソシステムまで視野に入れた、環境のアセスメントを行う仕組みを備えています。

支援としては、Sameroffの「発達の交流モデル」に依拠し、ASDのある人が困難を感じているところに直接取り組んで困難を減らすとともに、ASDのある人やその環境自体の発達も促していくという視点を持っています。それは、ASDのある人、環境ともにその「最近接発達領域」に取り組み、また、そのコミュニティへの正統的周辺参加を実現するようにして生活そのものを向上させる取り組みとなります。

また、ASDという特性自体が人間の多様性の一部であり、ASDのある人が特別な人間ではなく、同じこの社会を構成するメンバーであると考えています。その「多様性」ということから、ASD自体も、又、人間自体も多様であり、その多様な人間への支援も多様であること、そして、これまで開発されてきた有用な支援技法は、アセスメントに基づいて適切に適用することができると考えています。ですから、支援者の方が使ってきたいろいろな支援法を否定することなく、それを元にして発展させることができると考えます。

主催 SCERTS 研究会 ホームページ：<https://scerts-west.com>

メール：info@scerts-west.com

ツイッター：@ScertsW